

製品名: 嗅覚受容体 10J5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15145**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	OR10J5
別名	
遺伝子 ID	127385.0
SwissProt ID	Q6IFH2
免疫原	抗血清はヒト OR10J5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 220-269

背景

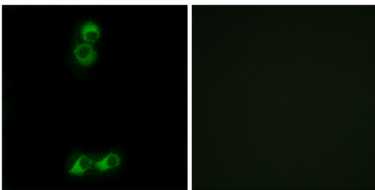
嗅覚受容体は鼻の中の嗅覚分子と相互作用し、嗅覚の知覚を引き起こす神経反応を引き起こします。嗅覚受容体タンパク質は、単一のコーディングエクソン遺伝子から生じる G タンパク質共役受容体 (GPCR) の大規模なファミリーに属します。嗅覚受容体は、多く

の神経伝達物質受容体やホルモン受容体と7つの膜貫通ドメイン構造を共有し、嗅覚シグナルの認識とGタンパク質を介した伝達を担っています。嗅覚受容体遺伝子ファミリーはゲノム中で最大のファミリーです。この生物における嗅覚受容体遺伝子およびタンパク質の命名法は、他の生物とは独立しています。細胞表面受容体を介したシグナル伝達、Gタンパク質共役受容体タンパク質シグナル伝達経路、感覚知覚、化学刺激の感覚知覚、嗅覚の感覚知覚、神経系プロセス、認知

研究分野

嗅覚伝達;

画像データ



OR10J5抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。